

上級聴解の問題点

—— 聴解授業の到達目標設定を目指して ——

川 口 義 一

キーワード

上級聴解 誤聴 学習到達目標 ディクテーション 意識化

0. はじめに

本稿は、筆者が1999年度の秋学期に担当した上級聴解クラスにおける学生の聞き取りの誤りを記述・分析したものである。第二言語における聴解の問題は、従来さまざまな形で議論されてきたが、実際にどのような誤りが生じるかという点について十分な資料が提示されているわけではない。特に、上級学習者の聴解については、どのような種類の錯誤が量的・質的な異なりをみせて起こるのかというデータの研究は十分とは言えない。

この方面で、唯一相当量のデータを公開し分析しているのが、小林他(1996)である。この研究では、筑波大学の聴解クラスの留学生を対象に行われた、テレビアニメ『サザエさん』および TBS のニュースショー『ニュース23』の「異論、反論、Objection」のディクテーション課題が分析されており、音声の具体的実現環境・学生の文法知識・学生の母語などの観点から誤聴解の実態の記述とその誤りが起こる過程の解明を試みている。記述の方法、誤りの分析ともに見るべき成果の多い研究である。

一方、学習レベル別に聴解授業を進める場合、各レベルでどのような到達目標の設定を行うべきかは、別途考察されてしかるべき問題である。この問題の解明のためにも聴解タスクの結果分析は必要である。その際、課題として与えられる音声資料は、到達目標設定のため、特定の基準に沿って選ばれたもので

あることが望ましい。上述の小林他（1996）の研究報告では、課題の『サザエさん』および「異論、反論、Objection」がどのような基準で課題に選ばれたのかについて簡単な解説はある¹⁾が、それが特定の学習到達目標の設定に合致するかどうかは不明である。

そこで、本稿では、特定の学習到達目標に沿って上級聴解のクラスの受講生に課したディクテーションの課題から誤聴を抜き出し、誤りの記述とその誤りの原因を分析²⁾して、その到達目標が上級学習者にとって妥当なものであるかどうかを検討し、聴解指導についての研究を行ううえでの、今後の参考に供することとする。

1. 聴解ⅧEクラスとディクテーション課題

本稿で分析の対象にしたデータは、上級聴解クラスの「宿題提出用紙」に記入された文字資料である。このクラスは、筆者が専任教員として所属する、早稲田大学日本語研究教育センター別科日本語課程の「技能別クラス」のうち、聴解技能の向上を目指すクラスの最上級レベルのものの一つで、クラス名は「聴解ⅧE」である。登録学生数は全22名で、13名が別科専修生、9名が学部・大学院生であった。学生たちは、センターの実施する技能別プレイスメントテストを受けて聴解が「Ⅷレベル」とであると判定された者か、あるいは1999年度の春学期に聴解の「Ⅷレベル」を修了した者かいずれかである。

「聴解Ⅷ」は、日本語課程のなかでもっとも高い聴解能力を身につけようとするクラスであり、次のような事項を学習到達目標および学習内容³⁾を掲げている。

①到達目標

◇発音／聴覚印象

インフォーマルな会話の音変化〔ウェーッス・～ッテカ?〕／幼児ことば・方言・外国人訛り

◇双方向伝達

討論会・座談会／ゼミ・学会発表／非丁寧体での会話、議論／特定位相言語話者（若者・やくざなど）へのインタビュー

◇一方向伝達

時事的・歴史的知識の必要な国内・国際ニュース／ドキュメンタリー番組（慣用句などを多く含むもの）／CM・娯楽やレジャーのスポット情報／文芸娯楽作品（映画・アニメ・TVドラマ・落語・漫才）／ポップス・歌曲などの声楽作品（古典語を含む）

②学習内容

「①到達目標」の具体例聴取・鑑賞および書き取り・位相語彙増強

このような目標を達成するためには、＜日本人と討論・交渉させる＞などの聴解行動を通して訓練する方法もあるが、クラス規模が大きくてそのような活動の運営が困難なため、および一般的なインターアクションに困難を感じるレベルの学生ではないため、むしろニュースやドラマなどを受動的に聞くことに専念することによって、「聞き取り」という行為の複雑な性格を理解する契機を与えることを指導の中心においた。ここでいう「聞き取りの複雑な性格」というのは、たとえば竹蓋(1984)に見られる「理想的な聞き手の条件」のようなものを指すのだが、そのうちでも特に同書で「3)言語的条件」と「4)コミュニケーション行動条件」と呼ぶ部分に学生の注意が向くように考えた。それぞれの「条件」の記述⁴⁾を以下に引用する。

3) 言語的条件

音素識別力があること

語い力があること (idioms や clichés の理解を含む)

文法力があること

意味の理解力があること (connotation の理解を含む)

4) コミュニケーション行動条件＜ただし、本稿の筆者による抜粋＞

人生経験が豊富であること

コンテキストから語の意味の推定ができること

口語体の言語の特徴を理解していること（語，語群，文とも）

方言の発音が聞きとれること

話者のスピードに順応できること

学生個々が、自分がこのような「条件」を備えた聞き手であるかどうかを認識し、自分に欠ける条件を「意識化」しておくことは、教師側の聴解指導にとっても、学生自身の主体的な聴解力向上への研鑽にとってもきわめて重要なことである。このような学生個々の「意識化」を促すため、「聴解Ⅷ」では「到達目標」の内容を含むテレビの報道番組・CM・アニメ・音楽CDなどをカセットテープに録音したものを学生に与え、その内容をすべて書き取る⁵⁾ディクテーション課題を課した。課題は、指定の「宿題提出用紙」に記入して提出させ、誤りを指摘したうえエラーの克服法について筆記または口頭でアドバイスを加えて（これが「意識化」の促進を支援する⁶⁾）返却した。本稿で利用したデータは、返却前の「宿題提出用紙」のコピーから得ている。

2. 誤聴の記述と分析

2-1. 課題内容

本節では、学生の提出した「宿題提出用紙」（1999年9月27日～2000年1月17日提出分）の文字資料から、上級学生の誤聴部分を記述して分析する。

まず、課題の内容だが、以下の17項目（01～17）の音声資料がそれである。

01. 台湾「集集大地震」余震続発

02. 国内ニュースヘッド項目

（1. 新幹線脱線事故／2. 登山遭難事故／3. 日韓合同海難事故対策訓練／4. エジプト大統領4選／5. 米大リーガーホームラン記録競争）

03. 海外ニュースヘッド項目

（1. 台湾大地震／2. G7蔵相・中央銀行総裁会議／3. ドイツ地方選挙／4. イギリス労働党大会／5. 米元大統領伝記出版にトラブル）

04. 東海村臨界事故－自衛隊出動要請

05. 東海村臨界事故－茨城県災害対策本部発表

06. 自衛隊への燃料納入で石油会社11社が談合

07. 東海村臨界事故－科学技術庁立ち入り検査

08. コンピューターウイルス送付事件

09. 日産自動車経営再建についてのカルロス・ゴーン社長談話

10. テレビアニメ『おじゃる丸』主題歌
11. 天皇即位10周年の祝賀行事
12. 歌謡デュオ「東京プリン」のCDより『私の彼はサラリーマン』
13. フジテレビ人気番組の「やらせ」疑惑
14. 劇場アニメ『クレヨンしんちゃん 雲黒斎の野望』
15. 少年ヤクザの談話
16. 早稲田大学校歌『紺碧の空』
17. 日本CM大賞受賞作品（J-phone／家庭教師のトライ）紹介

音声資料としては、01～08がニュース（漢語語彙を多く含む）、09・11・13・15が報道番組の報道部分と談話部分（15は談話部分のみ課題に）、10・12・16が歌詞（16は漢語の多い古典語）、14がアニメの登場人物の会話（大部分が古典語）、17がCMである。

2-2. 対象学習者

「宿題提出用紙」として集められたデータは、全体の量が膨大であるため、今回は全学生のうち韓国語ソウル方言を第一言語とする者3名（韓国籍）、朝鮮語咸鏡道方言を第一言語とする者1名（中国籍）、計4名のみを取り出し、そのデータを分析する。この3名を選んだのは、母語文化が異なることによる聴解上の問題を同質のものにしたいためであるが、国籍の相違による誤聴の差も見たいため中国籍の朝鮮族学生1名を加えた。

この4名の学習者を、便宜上KR1・KR2・KR3・KR4と命名しておくが、それぞれの最終成績は、KR1から順に75・80・90・95となっており、このクラスの平均から上位の成績を代表している。各学習者の履歴と対日年数は以下のようなものである。

◇KR1：韓国国立大学在籍。センター別科生。来日0.5年目

◇KR2：民間日本語学校で学習後、早稲田大学学部正規生。来日4年目

◇KR3：中国国立大学日本語科卒業。センター別科生。来日直後

◇KR4：韓国私立大学日本語科卒業。センター別科生。来日直後

2-3. 課題別の誤聴

以下に、01～17の課題別に誤聴の記述と分析を行う。以下、個別例ごとに番号を付け、原文を左に書き、誤聴を右矢印のあとに示し、その誤りを起こした学生を（ ）に記して記述する。原文は、最低限の文脈をつけ、誤聴の起きた部分には下線を施す。なお、内容理解上大きな問題を生じない固有名詞（課題<04>中の「自衛隊勝田駐屯地」の「勝田」など）の誤りは取り上げていない。

<01. 台湾「集集大地震」余震続発>

01. マグニチュードが6. 8と推定され→…6. 8度… (KR1)
02. 余震が観測されて→…感触… (KR1)
03. 傷んでいた建物が→いたんでした… (KR1)
04. 台湾当局では→台湾報告… (KR1)
05. 供給が再開される→…回後… (KR1)
06. 制限付きながら取引が始まる→千言つき… (KR2) / 宣言付き… (KR3)
07. 取引が始まる予定→どりひき… (KR1)
08. マヒ状態に陥っていた→…想態… (KR1)
09. マヒ状態に陥っていた→…落いていた (KR1)
10. 動き始めて→…始まって (KR4)

【分 析】

全体的にKR1にミスが多いが、単音レベルの聞き誤りが、語彙知識の不備や文脈の観察不足と重なって起きた複雑な誤聴（01・02・04・08・09）が目立つ。04などは、文節レベルでは大きな音の聞き誤りだが、文脈上意味が通じてしまう（台湾報告では…警戒を呼びかけています）ので、学習者は「正しく理解」したのと考えてしまうだろう。09は、韓国人学習者にときおり見られる、漢字表記の混乱である可能性もある。なお、KR1がクリアした「制限付き」をKR2・KR3が間違えた06は、「せいげん」のように鼻濁音と特殊音素が相前後する音環境がいかに聴覚印象を混乱させるかの典型例⁷⁾と言える。

<02. 国内ニュースヘッド項目> (KR 1・KR 4 未提出)

1. 新幹線脱線事故

01. 山陽新幹線→産用新幹線 (KR2) (KR3)

2. 登山遭難事故

01. 九合目→きゅうごめ (KR2) / きゅうごうえ (KR3)

02. 岩陰→ゆあかげ (KR2) / 岩崖 (KR3)

3. 日韓合同海難事故対策訓練

01. 合同訓練→協同訓練；高度訓練 (KR2)

4. エジプト大統領4選

01. 3期18年の長期政権→参議… (KR2)

02. 国民投票で信任される→…新任… (KR2)

03. 信を問う→信を通す (KR2) / 真意を通す (KR3)

04. 4選→よんせん (KR3)

5. 米大リーガーホームラン記録競争

01. 大リーグ→ダイリーグ (KR2)

02. タイトル争い→泰斗争い (KR3)

03. デッドヒート→レットヒート (KR2)

【分 析】

1-01は、KR 2・KR 3ともに音は正しく聞き取りながら、自由な意味解釈で間違いを犯してしまっているのが興味深い。同様な誤りが4-02に見られるが、こちらのほうは「長期政権」ということばを聞き取ることで「新任」ではないという推測が可能であったはずである。4-01も同様な推測で防げる誤聴である。聴解に際して、文脈全体をとらえる必要性を示す好例と言える。2-01/02・5-02/03などは特殊音素・重母音・ラ行音など聞き取りの難しい音が入っており、語彙知識の増強によってしか正確な聞き取りができない可能性がある。4-03は、コロケーションの問題であり、音の聞き取りより高度な語彙知識を必要とする。5-01は特殊分野の語彙の問題であり、野球に詳しくなければ、日本人でも正しく表記できないかもしれない。この辺りの語彙学習をどう考えるかは議論を要する。

<03. 海外ニュースヘッド項目> (K R 1・K R 2 未提出)

1. 出だし部分

01. 各放送局の伝えるトップニュース→スタイル (KR3)

4. イギリス労働党大会

01. 健康保険などへの支出の増加を抑え→資質 (KR3)

【分 析】

トップニュースは5項目あったが、K R 4はほぼ全正解⁸⁾、K R 3が上記の誤解をしたのみである。ただし、成績上位者のK R 3が1-01では「伝える」の語頭のツ音を、4-01では「支出」のシュの部分の無声化を正しく聞けなかったことは、アクセントの低い位置にある無声子音や母音の無声化が上級学習者においても聞き取り阻害要因になっていることを示すものである。

<04. 東海村臨界事故—自衛隊出動要請>

01. 陸上自衛隊→りくぞじたい；いくぞぜたい (KR1)

02. 幹部自衛官を現地に派遣→税関 (KR1)

03. 科学防護隊を…待機させて→報告体 (KR1)

04. 汚染物質を除去する除染車→おせんぶ室 (KR1)

05. 汚染物質を除去する除染車→増給する (KR1)

06. 汚染物質を除去する除染車→造船社 (KR1) / じょせんしゃ (KR2)
(KR4)

07. 車両11両／輜→量 (KR1)

08. 駐屯地に向かって出動させました。→指導させ (KR1)

09. 中性子線が検出されて→中性しせん (KR1) (KR3)

10. 中性子線が検出されて→検視されて (KR1) (KR2) (KR3) (KR4)

11. 放射能を測定する→ほしゃろ (KR1)

【分 析】

K R 1が全体的に誤聴が多い。添削した「用紙」返すときにK R 1に聞いてみたところ、このニュースの全体がよく理解できていなかったとのことであった。これだけ聞き取れない部分がある(33の異なり漢語中11÷33%)と全体の理解が阻害されることがよく分かる。この「用紙」には、ディクテーション欄

の下に「未習語彙の扱い」という欄があり、「①未習語彙なし」「②音から類推」「③音から辞書で確認」「④不明語句」の項目を自己申告することになっているが、02・05・06・08の誤りはすべて③に申告されていた。つまり、KR1は聞いたとおりの音で辞書を引き、その音に当たる単語があるのを見つけて、それを書いておいたのだが、それは全体の理解の助けにならなかったようである。個々の語彙が聞き取れないことが聴解資料全体の理解を阻害し、それがまた逆に、個々の単語の聴取が正しいものかどうかの自己認定を阻害するという悪循環⁹⁾が見られる。この悪循環を断ち切るためには、聴解指導の際に資料の全体について情報を与えておくというようなことが心がけられるべきであろう。

他の学生の誤聴で注意すべきは、全員が聞き誤った10の「検出」である。無声の摩擦音・破擦音の連続に母音の無声化が加わり、「けんしゅつ」と仮名書きしたときとはまったく異なる聴覚印象を受けた結果の誤りであろう。無声子音連続における母音の無声化は、上級の学習者にあっても引き続き意識化するように指導する必要がある。

なお、KR1は、06の「造船社」の「船」を「般」、07の「量」を「最」と誤表記している。

<05. 東海村臨界事故－茨城県災害対策本部発表> (KR3ほぼ全正解・KR4未提出)

01. 九つの市町村→ここのち (KR1)
02. 九つの市町村→ひちょせん (KR1) / 支庁上 ([さん]と読みがな) (KR2)
03. 施設のごく近く→しせつ? (KR1)
04. 施設のごく近く→こくちかく (KR1)
05. 換気扇→換気線 (KR1)
06. 空調機→くち? (KR1)
07. 取水口 (シュスイグチ) →? (KR1)
08. 対応する→代用する (KR1)
09. 井戸水や雨水→甘水 (KR1)

10. 当面→とおめん (KR1)

11. 災害対策本部→産害 (KR1)

【分 析】

ここでも K R 1 の誤聴が目立つ。03・05・10などは、音は正しく聞き取りながらそれを意味のあることばに置き換えられずにいる。03の「しせつ」、05の「換気線」、06の「くち」は、「用紙」の「④不明語句」に挙げてあり、辞書を引いても意味が判明していない。03の「しせつ」のような基本的なことばが辞書を引いても分からなかったのは、04の「ごく近く」を「こく／ちかく」と聞き、「ちかく」を「近く」と考えたためだと言う。そうすると、「しせつの／こく／近く」という語句の解釈をせねばならず、「こく」が分からないかぎり全体の解釈はできない。これも一つの実ミスが全体に影響する例である（注9参照）。なお、K R 2 の02の「上」の字に「さん」という読み方がついているのは、韓国語で同じ漢字を [saŋ] と発音するためである。

<06. 自衛隊への燃料納入で石油会社11社が談合> (K R 3 未提出・K R 4 ほぼ全正解)

01. 戦闘機などの燃料→ねんびょう? (KR1)

02. 談合を繰り返していた→団交 (KR1) / 番号 (ただし1箇所のみ)
(KR2)

03. 談合を繰り返していた→繰り返して (KR1)

04. 疑いが持たれて→お互い (KR1)

05. 疑いが持たれて→凭れて (KR1)

06. 価格→価額 (KR2)

07. 方法で→ようぐごで (KR2)

08. 防衛庁→保安庁 (KR1)

09. 業界→協会 (KR1)

10. 価格が暴騰→膨と (KR1)

11. 高値での取引→高値段の (KR1)

12. 主張→輸出 (KR1)

13. 会計検査→会議検査 (KR1)

14. 公正取引委員会→こぜとりぎん会 (KR1)

15. 検察庁→検察署 (KR2)

16. 最終的な協議→最初の (KR1)

17. 最終的な協議→凝義 (KR1)

18. 独占禁止法→独点 (KR1)

【分 析】

K R 1 と K R 2 に誤聴解が見られるが、K R 2 が「談合」「暴騰」「会計検査」「公正取引委員会」などを、「用紙」の「③音から辞書で確認」の欄に申告しているのに対し、K R 1 は同欄に「もたれる→凭れる」「にゅうさつ→入札」「ほう→膨」とあるだけで、キーワードの理解が不十分であることが分かる。K R 2 のような確認能力のあることが上級学習者の要件だと言ってよいであろう。K R 1 のように全体の内容と個々の語句の関連が読み取れないと、「談合を繰り返していた疑いが持たれています」を「団交を繰り返しお互いが凭れています」と取り違え、なんだか理解できたように思ってしまう。

なお、確認できなかったが、K R 1 18の「点」は「占」の誤表記の可能性もある。

<07. 東海村臨界事故－科学技術庁立ち入り検査> (K R 3 未提出)

01. 臨界事故を→事件 (KR1)

02. ウラン濃縮工場→のし (KR1)

03. 任意の調査→? の (KR1) / 新の (KR2) / 二院の (KR4)

04. 対応→態様 (KR1)

05. 責任を負う官庁→責任を感じよう (KR1)

06. 妥当→だんと (KR1)

【分 析】

K R 1 の誤聴解箇所が以前より少なくなって (27の異なり漢語中 6 ÷22%) いる。それでも、05のように全体の一部を聞き逃したことに気づかず、残りをなんとか解釈してしまおうとするような態度がまだ見られる。

音声面では、03の撥音と母音の連続による聞き取りにくさが全員の誤りを引き起こしている。02の母音無声化も、中級学習者ならむずかしいと思われる。

また、06は「だとう」の長音拍の長さを、別の特殊音素である撥音で置き換えて（ただし、別の位置で）埋め直したものと思われる。

<08. コンピューターウイルス送付事件> (K R 3 未提出・K R 2 / K R 4 全正解)

01. 大手ソフトメーカー→ヴィカ／ウェア (KR1)

02. 利用者→見お者 (KR1)

03. 振興協会→申告協会 (KR1)

04. ウイルスを検出する→消すつ (KR1)

【分 析】

前回に続いてK R 1の誤聴解箇所が減って(22の異なり漢語中3≒13%)いる。事実、この辺り¹⁰⁾からK R 1は漢語の聴解力が上がり、他の学生の犯さないような、初歩的な誤聴はしなくなった。この回の誤りには、語頭子音の弱化(01の[m]、02の[r])が原因と見られる誤りがある。課題04で全員が聞き取れなかった「検出」は、今回K R 1以外は聞き取れており、課題04の添削による学習効果が現れている。

<09. 日産自動車経営再建についてのカルロス・ゴーン社長談話>

01. 再建計画→最近計画 (KR1) / 再転計画 (KR3)

02. 提携先ルノー社→世紀作 (KR1)

03. 「コストカッター」こと→こすとかたこと (KR1) / ポストカッターこと (KR2) / ポストカプタゴトウ (KR3) / ホストカッターこと (KR4)

04. プランを→ぷらの (KR3)

05. 努力や痛み→能力 (KR1)

06. 努力や痛み→いたり (KR1) / 要たり (KR3)

07. 犠牲が必要となるか→店 (KR1) / 日産 (KR3)

08. 犠牲が必要となるか→イチヨウとなる (KR3)

09. 痛い→いったい (KR1) (KR3)

10. 大胆に→だいたんい (KR1)

11. こう宣言 (KR1) →5,000円 (KR1) / こう遷延 (KR3)

12. 「再生」の意→さいせのい (KR1)

【分 析】

「外国人訛りの日本語」を題材にしたが、他の課題では誤りの少なかった中国朝鮮族のKR3がKR1と同様の誤りを犯していて、興味深い。04～09の部分は、文字に起こせば「<日産リバイバルプラン>を成功させるためには、どれだけ多くの努力や痛み、犠牲が必要となるか、私にも痛いほど分かっています」だが、発言者の日産新社長がフランス訛りの強い日本語で話しているため、下線部分で聞き取りが困難になっている。KR3は、外国訛りの日本語をじっくり聞くのが初めてとのことで、文意より音を優先させる聴解態度を取ってしまい¹¹⁾、誤りを重ねている。

なお、「“コストカッター (cost-cutter)” こと」という部分はさすがに難しく、「聴解ⅧE」の同課題提出者20名のうち半数の10名しか正解していない。ただ、正解者のうち7名は学部・大学院生の韓国人・中国人留学生（提出者8名）、3名は別科の西洋人留学生（提出者全員）¹²⁾であった。このような洋語系の外来語理解には日本社会での長い生活経験を持つか、西欧語を母語としていくことが助けになることがよく分かる。

<10. テレビアニメ『おじゃる丸』主題歌> (KR3未提出・KR2全正解)

01. 遠い道程は→道のれ (KR1)
02. ヒューヒューと風が吹きゃ→シューシュー (KR1)
03. 雲に泣いてたお天道様も→ぼてんぼさま (KR4)
04. にっこり笑い出す→にこに (KR1)
05. 急がず焦らず参ろうか→いそらず (KR1)
06. 急がず焦らず参ろうか→まあ、いろいろか (KR1)
07. 乾いた土に命が芽生え→かわい たつきに (KR1)
08. 乾いた土に命が芽生え→めがれ (KR1)
09. シーンシーンと雪が降りゃ→シボシボ (KR1)

【分 析】

テンポのゆっくりした子供向けの曲で、それほど長い歌詞でもないが、KR1の誤聴解が多い。これはKR1が語彙・表現の知識に十分でないところがあ

るせいである。「ヒューヒューと風が吹く」「シンシンと雪が降る」「遠い道程」「にっこり笑う」「急がず焦らず参ろう」などの語彙・表現と表記の知識がなければ、音を音として聞くしかなく、そうであれば「ヒューヒュー」は確かに「シューシュー」とも聞こえ、「にっこり」は「にこに」とも聞こえる。また、語句の構成が不明になるため、「まあ、いいろうか」「かわい たつきに」「可愛い」「たつき？」と聞いたという)のような表記を生んでしまう。なお、KR 4の「お天道→ぼてんぼ」、KR 1の「シーンシーン(と)→シポシポ」の誤りは撥音の鼻音性とその直後の[to]の母音の全体的印象から「ポ」を聞いてしまったもの¹³⁾である。KR 4とKR 1のように総合的な語彙力に差がある学習者の間でも、「知らないことば」を聞くときの聴解過程には大きな差異がないことが分かる。

<11. 天皇即位10周年の祝賀行事> (KR 2未提出・KR 3/KR 4全正解)

01. 皇后様→こ子様 (KR1)
02. 記者会見→しゃかいけん (KR1)

【分 析】

KR 1にも誤りが少ない。「しゃかいけん」の誤聴解は、低アクセントでの無声子音と無声化した母音が聞き取りにくいという例である。

<12. 東京プリンCDより『私の彼はサラリーマン』> (KR 1は1, 4番全滅)

01. 「会社辞めてやる」が口癖→やくじるせ (KR2) / 学地くせ (KR3)
02. 土日も→でびちも? ; でぐちも? (KR4)
03. 外資系→がいしけん (KR1) / 外使形 (KR3)
04. 派手なシャツに派手なタイ(<ネクタイ>)→帯 (KR3)
05. あいづち→あいじゅち (KR1)
06. 実家電話すると→実家で うわすると? ; うわずると? ; 和すると? (KR4)
07. 訛り交じります→なまでなじにます (KR1)
08. 乗ってる車はイタリアン→イタリア風 (KR3)

09. 女、口説く時は→女と行く (KR1) / 女くよく (KR2) / 女、くうよう (KR3)
10. 決定力あります→結戦と比べます (KR1) / けてくらります (KR2)
11. 目当ての女には保険効かせます→保険金かせます? ; かせげます? (KR2)
12. ビジュアルの男→ビズアル (KR1) / 意地悪 (KR3)

【分 析】

超上級の聴解力の上限を測るため導入した、社会風刺色の強いポップ歌謡の歌詞である。ある程度の時事的な現代社会知識を必要とするうえ、曲のテンポも速く、しっかり文脈をとらえないと無意味な音の羅列が聞こえるだけになる可能性がある。そのため、来日したばかりで、かつ日本の現代社会の状況が情報として伝わりにくい中国出身のKR3に普通よりは誤聴が多くなるはずであるが、結果もそのように出ている。それでも、語彙知識を総動員して有意味な語句を書こうとする努力 (03「外資系→外使形」12「ビジュアル→意地悪」など) が見られるところを上級学習者の力と考えてもよい¹⁴⁾と思われる。KR2・KR4も不明な箇所には複数の解釈可能性を記しているが、これも上級学習者の実力である。他の3名よりは誤りの多いKR1も、09「女、口説く→女と行く」・10「決定力あります→結戦と比べます」のように、有意味な語句に置き換える努力が見られる。

<13. フジテレビ人気番組の「やらせ」疑惑>

01. やらせ騒動→そどう (KR1)
02. レギュラー出演者→? 視聴者 (KR1) / レギュラーしせんしゃ (KR3)
03. いくらお金いただいてっか→お考え (KR1)
04. いくらお金いただいてっか→いただえたか (KR1) / 頂いてか (KR3)
05. それなりの覚悟で→それないの (KR3)
06. 謝礼みたいなものは、ねえ→しゃれ (KR1) (KR2) (KR3) (KR4)
07. モザイクしてらっしゃいますよ→モジャイク (KR2)
08. レギュラー出演→れぎらしぜん (KR1) / レギュラーしせん (KR3)
09. ないんですか→ないですか (KR1)

10. 当日→どうじつ (KR1)
11. ぶっつけ本番→打ち付け本番 (KR1) /ぶっつけ本場 (KR3)
12. 一応→いちよ (KR1)
13. ご主人は→事業人とか (KR1) /ごしには (KR2) /ボシには (KR3)
/ ? には (KR3)

【分 析】

きわめて時事性の強い三面記事的ニュースであり、アナウンサーの語り部分と問題の番組の出演者のインタビューが交互に出てくるものである。出演者の困惑した話し方には、間投詞やフィラーが多く入り、縮約形も頻出する。この番組は学生4名が全員見ていたと答えたので、番組の中の何が問題かについての理解はできるが、それだけでは正しい聴解に至らないことが分かる。ここでも、中国出身のKR3が、08「レギュラー出演／出演者」と11「ぶっつけ本番」を、KR1と同様に正しく聞き取れなかったのが興味深い。また、全員が聞き誤った06は、「謝礼みたいなものは、ねえ、やっぱりいただくわけですよ」という文脈の中で出て来たものであり、「れい」の長音部分は不明瞭だが「しゃれ」とは解釈しにくい。しかし、4名とも「謝礼」が「お金」を表すことを知らなかったとのことで、そのため「シャレ」という音を「謝礼」に表記できなかったようだ。もう一つ全員が聞き損なった13は、確かに「ゴシュジン」という音には聞こえにくく、文脈上の助けもあまり得られない部分である。こういう箇所聞き取りはむずかしい。

<14. 劇場アニメ『クレヨンしんちゃん 雲黒斎の野望』>

01. この巾着お吟めに下さりませ→お姫に (KR1) /を姫に (KR2) /いひめ (KR3)
02. 好きにいたせ→好きにだせ (KR2) /好きに出だせ (KR3)
03. 酒と女の香には飽いた→女のかにはあいだ (KR2)
04. なぜ私にお命じ下さらぬのですか→お明示下さぬ (KR1) /お明示下さらぬ (KR2) /お命じ下さる (KR3)
05. 要らぬことを言いおって→いらのこといおて (KR1) /いらぬこといおくて (KR3)

06. 平に→ひらぎ (KR1) / ひろに (KR2)
07. 遅れてるな→飢えてるな (KR1)
08. 永きに互っての囚われの身、大儀であった→はいぎ (KR1)
09. へーい、彼女お！→へい、かれちゃん (KR3) / ええか、姉ちゃん (KR4)
10. おらのお胸でおもっいきり泣けばあ→おれの (KR2)
11. 大層お嘆きなされ→大葬をおながきねされ (KR1)
12. 詐欺だ→さみだ (KR1) / さんゆう (KR2) / 賛意だ (KR3)
13. 長居は無用→ながいは無休 (KR1)
14. この場を離れましょう→この夜 (<晩>の誤記か) (KR1)

【分 析】

古典語の理解を確認するために選んだ題材である。戦国時代にタイムスリップした現代人の主人公とその時代の登場人物のやりとりが随所に現れる。課題にした部分のアニメ画像は、教室で2回見せて、場面のイメージを与えておいた。誤聴の多かった01は、この時代にありそうな女性名と卑小接尾辞の「め」の機能を知らなければ、正確には書き取れない。ただ、画面の女性の様子から「姫」を選んだKR1・KR2は、文脈からの類推を正しい方向に働かせてはいる。04は、二人の刺客が城主より暗殺の命令を受ける場面で、命令を受けられなかったほうが恨みを述べるところである。ここのKR1・KR2・KR3の誤りも、それぞれあと少しの言語知識によって正解に達しうる。この二つの部分や02「好きにいたせ」05「要らぬことを言いおって」などをクリアしたKR4は、母国の大学で古典日本語の講義を受けており、なおかつ時代劇ファンである。他の3名との言語や歴史についての知識の違いが理解過程に影響している。逆に、KR4がKR3とともに09を聞き取れなかったのは、「彼女」の二人称代名詞としての用法を全く知らなかったためである。この点では、来日後半年過ぎているKR1と学部正規生であるKR2の、滞日時間の相対的な長さと共に伴う口語表現の知識が有利に働いている¹⁵⁾。なお、12「詐欺だ」の3種の誤聴はガ行鼻濁音の鼻音性から「み」や「ん」の音が聞こえてしまう例として、「平に→ひらぎ」は逆に[n]音の鼻音性からガ行鼻濁音を聞き取ってしまう例として、それぞれ興味深い。

<15. 少年ヤクザの談話>

01. やくざもんやってんなんて→やくじゅ (KR2) / やくざも (KR4)
02. やくざもんやってんなんて→やってため (KR2)
03. はっきり言って→聞いて (KR1)
04. 甘かったね、それは。→あの何か、それは。(KR1)
05. 五月に一回→三日に (KR2)
06. 家にもね、ちゃんと帰ってたし→書いてたし (KR1)
07. そんで→どんでも (KR1)
08. 出たら→でたな (KR3)
09. 喉元過ぎれば熱さを忘れる→? (KR1) / ? 過ぎれば朝忘れる (KR2)
/ 度を過ぎれば後を忘れる (KR3) / ろう過ぎればあさわすれる (KR4)
10. 苦しいところ、過ぎちゃえば→過ぎたよね (KR4)
11. やっぱ、甘えちゃうわけよ。→やっぱ、まいっちゃうのよ。(KR1) /
やった思えちゃうわけよ。(KR4)
12. 一步、外に出ればね→一方、そこを出ればね (KR3)
13. 一番→いちめい (KR1)
14. かと言ってね→カペ行ってね (KR1) / かべへ行ってね (KR3)
15. 事務所でお世話んなってる→事務所のお世話になってる (KR2)
(KR4) / 事務所のおさんなする (KR3)
16. 組長にも→部長にも (KR1) / 近所にも (KR3)

【分 析】

この資料は、少年やくざが、反社会的な行為は反省しながらも、結局やくざの社会へ戻ってしまう自己の心情を吐露しているところで、早口ではないが縮約形の多い談話である。この課題では、09「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということわざを、4名の学生全員が知らなかったことが注目される。この部分は、「<喉元過ぎれば熱さを忘れる>ってということばがあるでしょう？ だから、苦しいところ、過ぎちゃえば、やっぱ、甘えちゃうわけよ」となっているが、KR4が、ことわざ部分を聞き取れず、そのあともすべて誤聴しているのは、実力のある学習者でも一カ所のつまづきが全体の理解に影響することがあ

るという例（注9参照）として興味深い。また、KR2の05の誤聴は、低アクセントの「い」と重母音の[ai]が聞こえず、「いっかい」を「っか」と聞き、それを「三日」と解釈したあとで、助詞として記憶していた「五月に」の「に」をその「三日」につけて、解釈に整合性を与えたものであろう。聴解というのが、ただ言語音を発せられた順に聞き取るという単純な理解過程でないことが窺える例である。

<16. 早稲田大学校歌『紺碧の空』> (KR1・KR3ほぼ全滅・KR2未提出)

01. 闘志は燃えて→どうし (KR4)

【分 析】

これは、別科の修了式を間近に控えて校歌を覚えてもらうべく出した課題で、実は密かに学生手帳に載っている歌詞を見て書いてくることを期待したものだ。しかし、提出したこの3名は、この印刷された歌詞の部分を見ずにディクテーションをしたとのことで、その結果、KR1・KR3ともにほとんどの部分を正しく書き取れなかった。このような漢文調の語彙の続く定型韻文の歌詞を、ほとんど完璧に書き起こしたKR4の実力は相当のものだと見なしてよかろう。KR3とKR4は、他の課題ではあまり差がないように見えるが、この課題で堅い漢語語彙および古典日本語の知識上の相違が浮かび上がった。したがって、上級と超上級との際をこのような言語知識を必要とする聴解課題をクリアできるかどうか¹⁶⁾に置いてもよいと思われる。

<17. 日本CM大賞受賞作品 (J-phone / 家庭教師のトライ) 紹介> (KR2未提出)

01. どこにでも現れるんだろ?→どこ見ても (KR1) (KR3)

02. ところが→ところが (KR1) (KR4)

03. だめだ、切れた。→だめ、飽きた。 (KR3)

04. 最近多いんだってね、そういうの。→さあ、強いんだってね。 (KR3)

05. 最近多いんだってね、そういうの→そういうもん (KR1)

06. 基本的に明るいんだよね、ああいう人って。→愛想って。 (KR1)

(KR3) (KR4)

07. この間なんか、靴下に穴開いてたし。→この間まだ (KR3)

08. この間なんか、靴下に穴開いてたし。→あないたし。(KR1)

【分 析】

短い時間に多くのメッセージを詰め込むCMの理解も、総合的な文脈把握力と言語知識が必要とされる。この課題もCMの映像を2回見せてから課題としたものである。全員が誤聴した06は、中学生ぐらいの女の子の発言であり、よく聞くと「あーゆいって」のように聞こえる。この音から「基本的に明るいんだよね」に合わせるようなことばを探した結果が「愛想って」になったものであろう。この場面は、母娘で家庭教師の人物評定をしているところなので、「基本的に明るいんだよね、愛想って」ではその後の会話の展開に合わないのだが、一度なんとなく意味が通じてしまったような気がしてしまうと、それ以上確認しなくなるようである。

4. まとめと課題

以上、聴解ⅧEクラスの学生4名の誤聴分析を行ってきたが、この結果から、学期始めに設定したクラスの到達目標設定を再検討してみよう。

まず、聴取させる音声資料としては、次の項目を課題に取り入れることができた。

◇発音／聴覚印象

インフォーマルな会話の音変化／外国人訛り

◇双方向伝達

非丁寧体での会話／特定位相言語話者（やくざ）へのインタビュー

◇一方向伝達

時事的・歴史的知識の必要な国内・国際ニュース／ドキュメンタリー番組（慣用句などを含むもの）／CM／文芸娯楽作品（アニメ）／ポップス・歌曲などの声楽作品（古典語を含む）

提出されたディクテーション課題の分析をみると、KR2・KR3・K

R 4 のような成績上位の学生はあまり誤聴を起こさず書き取ることができるが、非常にやさしいわけではなく、K R 1 のように成績中位の学生には一定の努力が必要となる¹⁷⁾ 難度の内容のものであり、その点では上級用の聴解資料の内容としては到達目標として設定するにふさわしいものであると言えよう。

ただ、この「到達目標」では、クラスでの学習内容が「①到達目標」の具体例聴取・鑑賞および書き取り・位相語彙増強>と抽象的に規定してあるのみであり、具体的にどのような点に注意して指導すべきかの記述に乏しい。今回の誤聴分析の結果から、指導上の留意点を導き出してみると、次のようになる。

1. 文脈全体を見通しつつ、細部を聞き取れることを意識させる。
例：四選濃厚な大統領が「国民投票で新任」されるはずはない
2. 再度の聞き直しを徹底させる。
例：石油会社と防衛庁が「団交を繰り返してお互いに凭れている」はずはない
3. 語彙の増強を意識的行わせる。
例：「謝礼」は「お金」のことである／「外資系」企業の社員は「タイ」が派手
4. 熟語・慣用句・ことわざなどの知識の増強を意識的行わせる。
例：「喉元過ぎれば熱さを忘れる」は少年でも知っている／「彼女」は二人称も
5. 母音の無声化・鼻濁音・低ピッチの語頭の無声子音の弱化などについて説明する。
例：「検出され」は「検視され」と聞こえ、「さぎだ」は「詐欺だ」に聞こえない
6. 音連続の解釈過程は複雑であることを認識させる。
例：「五月に一回」は「五月三日に」と聞こえる
7. 古典語の表現に対する知識の増強を意識的行わせる。
例：「お命じくださらぬのですか」の「ぬ」は否定の助動詞である
8. 外国人訛りや方言の発音の感じをつかませる。

例：フランス訛りの日本語では、「必要」は「いつよお」に聞こえる

9. 韓国人学生には漢字の表記に注意させる¹⁸⁾。

例：「りょう」は「量」であって「最」ではなく、「ふね」は「般」ではない

すなわち、上級聴解授業では今回の課題に用いたような音声資料を使い、上記1～9のような指導をすれば、今回の誤聴分析で見たような誤りの克服につながるのではないと思われる。ただし、語彙や表現増強は、最終的には学生の努力によるものであり、教師はあくまでもそれが必要なことを意識化させることが重要である（注10参照）。

なお、今回の課題で、調査の対象にした学生以外にも誤聴が多かった、外国人訛りの発音・和語系／漢語系の古典語とその時代背景理解などは、上級一般の到達目標というよりも「超上級」の目標になろう。現在のところ、別科日本語課程のⅧレベルは「超上級」を目指すレベルとして置かれているが、今回の分析を見る限り、むしろ「堂々と上級だと言い切れる」レベルを到達目標にするほうが学生の実情にあうようである。したがって、当初上級の到達目標として考えたもののうち、「歴史的知識の必要なニュース」や「古典落語」のようなものは、Ⅷレベルの課題としない¹⁹⁾としてよいのではないだろうか。

今回は、別科日本語課程の聴解最高レベルの到達目標設定を、その設定に従った課題への解答分析の成果によって再検討したが、今後は、同様の研究を聴解最下レベルのクラスと中位レベルのクラスについて行い、現在Ⅲ～Ⅷまで6段階ある聴解クラスの、各レベルの到達目標設定を明確にしていこうと考えている。

（注）

- 1) 小林他（1996）p. iii および p. 4 参照。ただし、レベル設定の思想は窺えない。
- 2) 聞き取りおよびそれを書き取る際の表記の誤りの両方を「誤聴」と呼ぶこととする。
- 3) この「到達目標」および「学習内容」は、聴解クラス全体のコーディネーターである筆者が ACTFL の Proficiency Guidelines を参考にして、Ⅲ～Ⅷの全レベルのために作成し、担当講師に配布したものである。現段階では、試行版である。

- 4) 竹蓋 (1984) p. 68-69より抜粋。
- 5) フィラー・問投詞・縮約形などすべて聞こえたままに書くように指示した。このような課題にしたのは、ボトムアップ型の聴解練習が、表現の位相差など音声表現の諸相を知るという高度な聴解の学習レベルの目標に合致するためである。上級聴解指導でのこのような理念は、新屋 (1993)・中込 (1995) などにも見られる。
- 6) 「宿題提出用紙」のエラー指摘と訂正だけでなく、「学習過程ノート」というA4のレポート用紙を配布し、これに「聴解上の問題点」「1度で覚えた語句・表現とその使用文脈」「繰り返しで覚えた語句・表現とその使用文脈」を報告させて、学生個々の問題の「意識化」を試みた。
- 7) 同様の問題として、川口 (1984) p. 43「鵜飼の篝火が」の誤聴分析を参照のこと。このような複合的な誤聴生成過程については、他に報告されている例を知らない。
- 8) 誤聴部分は、放送局名である「フランス・ドゥ (France 2)」「ツェット・デー・エフ (Z. D. F.)」などのみである。なお、ロシア人学生とデンマーク人学生は、これらの欧米の放送局名をすべて正確に書き取っている。
- 9) 同様の指摘は、田丸 (1990) pp. 20-21・新屋 (1993) pp. 131-135にも見える。
- 10) 特に「再度の聞き直しを徹底」し、辞書を丁寧に引くように指導した結果かと思う。
- 11) 小林他 (1996) p. 18に「文法力の弱い学習者ほど音声を優先させてしまう」とあるが、これを「語彙力の弱い学習者」と置き換えてもよいであろう。
- 12) うち1名は、韓国人であるが、高等教育は米国で受けている。
- 13) 注7) の例と同様、このような音声連続の聞き違いは、人間の短期記憶に残る言語音の認知的処理が、分節的ではなく総合的に行われることを示唆している。
- 14) 田丸 (1990)・中込 (1995) のように、聞き取れたものだけからつじつま合わせて意味を理解することの危険性も説かれているが、誤聴と言ってもいろいろなレベルのものがあ、どのように「つじつま合わせ」をするかで、高度な聴解力の、さらに詳細な評定が可能であろうと思う。
- 15) KR2を含め、この課題を提出したすべての学部生が、この部分を正しく書き取っている。未提出の他の学部生も、「彼女」の二人称用法は知っていた。
- 16) 学部学生のほとんどは、学生手帳にある歌詞を参考にして書き取った。「校歌の歌詞は学生手帳に書いてある」という社会知識を持つことも、上級者の証しである。
- 17) KR1は、実際はⅦレベルにプレイスされていたのに、本人の強い希望でⅧクラスに来たのである。本人の努力により最終的には中位の成績を収めたが、課題<7>以前の誤聴は、まさに上級課題に挑戦した中級学習者のそれと言ってよい。
- 18) 漢字表記の点では、簡体字を書いてしまいがちな、大陸中国人も同様である。なお、中込 (1995) の調査では、中国人学習者に助詞や文末の誤聴が多いとある (p. 35) が、本稿の聴解Ⅷレベルの中国人学生にはその傾向は見えない。本稿の学生が、総じて文法力の高い学生であるためか。
- 19) ただし、聴解Ⅷのクラスには「古典落語を鑑賞」できるレベルの学生がいるところもあり、「Ⅷレベル」は上級と超上級の両方になる可能性がある。

<参考文献>

- 川口義一 (1984) 「発音と聴解の指導」『講座日本語教育』第20分冊・早稲田大学日本語研究教育センター
- 小林典子／フォード丹羽順子／小河原義朗／山元啓史 (1996) 『外国人日本語学習者のディクテーションに見られる誤聴解の分析』(平成5～7年度科研研究成果報告書)
- 新屋映子 (1993) 「日本語中上級学習者の聴解能力について」『日本語教育』79号・日本語教育学会
- 竹蓋幸生 (1984) 『ヒアリングの行動科学』・研究社出版
- 田丸淑子 (1990) 「中級日本語学習者に対する書き取りの練習—予備的考察—」 *Working Papers*, Vol. 2, No. 1, International University of Japan
- 中込明子 (1995) 「ディクテーションの誤答分析から見た聞き取りの研究—中上級日本語学習者を対象として—」 *Proceedings*, The 6th International University of Japan Conference on SLR in Japn 1995